



ハルリンドウ

1、2024年度作業報告－3

1) O地点（裸地の維持）

O地点はイヌノハナヒゲを除去して裸地を維持する実験を行っているところです。今年も根が抜きやすいので雨が降った直後を中心に作業を行いました。昨年の夏、7・8月はほとんど雨が降らず、O地点は干からびてしまいました。例年、トウカイコモウセンゴケやミミカキグサ等の食虫植物が見られるところですが、昨年はほとんど見られませんでした。作業後は水がわき出し、所々で水溜まりができています。今年はトウカイコモウセンゴケやミミカキグサが多くみられることを期待しています。



O地点作業中（2025年1月7日）



O地点作業中（2025年1月21日）

2) I・N地点（ホソバリンドウの保全）

I・N地点はホソバリンドウが自生しています。葦毛通信 164 号でホソバリンドウの人



I 地点作業前（北から：2025年1月22日）



N地点作業前（南西から 2025年1月22日）

工授粉を紹介しましたが、これまで結実率は30%程度であり高くありませんでした。今回も十分には結実していないようです。

今回の作業では、ホソバリンドウが自生しているところを木の枝で囲み、その周囲のヌマガヤ等を除草して日照を確保しました。昨年も同じ作業を行い15本ほどの発芽を確認しましたが、今春も同様に発芽することを期待しています。昨年はヌマガヤの成長に負けてホソバリンドウの多くが成長できずに終わってしまいましたが、今年は随時ヌマガヤを刈り取って日照を確保してホソバリンドウが負けないようにするつもりです。



I 地点作業後（北から：2025 年 2 月 26 日）

N 地点作業後（南西から 2025 年 2 月 26 日）

3) I 地点北（ミズゴケ除去実験）

I 地点北は江戸時代に造られた不整形の水田跡です。右写真は作業前の状況でヌマガヤやネザサ等が繁茂していました。実験区は画面中央の説明看板の右側にあります。作業はミズゴケを除去し、旧地表面を掘り出し、裸地化しました。

説明看板の後ろ側は植生回復作業で除草して、一部のミズゴケを除去した実験区です。トキソウ等の希少植物が復活し、ヤマラッキョウが開花する等の一定の効果はありました。しかし、すぐにヌマガヤが優勢になり、他の湿生植物は衰退していました。

今回はコシダやネザサを除草し、根を剥ぎ取りました。ミズゴケの除去も行い、裸地化し、旧表土からどのような植物が発芽するのかを確認します。次頁左写真は作業前と同じところから撮った写真で、右写真は近接写真です。

画面右奥の白くなっているのがミズゴケです。手前のロープのあたりまでミズゴケが覆っていました。画面左側は一段高くなっており、棚田状の水田であったことが分かります。水分量が多く、良好な湿地に戻ると考えられます。

手前のポールの下にもトキソウが自生していましたが、現在は見られなくなっています。ミズゴケが蓋をしていたような状態でしたので、日照が確保され、眠っていた埋土種子から多くの湿生植物が発芽することを期待しています。



I 地点作業前（北から：2025 年 1 月 22 日）



N地点作業後（南西から 2025 年 1 月 22 日） **A地点作業後**（2024 年 4 月 4 日）

4) I 地点北西（池復元実験）

I 地点北西はかつて小さな池があったところです。ヒメミミカキグサが自生し、多くのアズマヒキガエルが産卵に来ていました。徐々に泥が堆積し埋まってしまい、ヌマガヤの群落になってしまいました。



I 地点作業前（北から：2025 年 1 月 29 日） **I 地点作業中**（北西から：2025 年 2 月 26 日）

今回はヌマガヤを除草して、人力で根を掘り取って池を再生しています。上左写真は作業前、右は作業途中の写真です。掘り起こしたヌマガヤの根がいくつも見られます。

右写真は木道から池を見たところです。作業を行っていく段階で、泥が堆積した元池の部分は柔らかく長靴が潜って足を取られる状態でしたが、その周囲はやや硬くなっていました。

埋土種子から様々な湿生植物が復活することを期待しています。



I 地点作業中（北から：2024 年 4 月 4 日）

5) K地点東(裸地化の実験)

K地点東はウメバチソウ復活を目指してコシダの群落を除去したところです。下左写真は掘り取った根を積み上げて仮置きし、根の層の中にウメバチソウの埋土種子がある可能性があったので、一年間様子を見ていました。ウメバチソウは復活しなかったため、今年は根を持ちだす作業を行いました。下左写真は作業前で中央に仮置きした根の山があります。下右写真は画面の奥を裸地化したところで、コシダの根の山を除去して表土を除去したところです。



K地点東作業前(2024年4月4日)



K地点東作業後(2025年2月26日)

2. 葦毛湿原春の観察会

葦毛湿原春の観察会を開催します。今回も事前申込不要で、現地で当日受付けを行います。観察会では、葦毛湿原や周辺の自然環境について説明します。植生回復作業で再生した湿原をぜひご覧ください。現在、葦毛湿原ではハルリンドウが咲き始めています。例年ピークは4月中旬頃ですが、今年は開花が遅れています。観察会の時にも花は若干残っていると思われます。ミカワバイケイソウ、カザグルマは見ごろを迎えることでしょう。



ハルリンドウ(2024年4月8日)

葦毛湿原春の観察会

- 1 開催日時 4月26日(土) 9:30 ~11:30
- 2 集合場所 長尾池公園あずまや(トイレ東側)
- 3 参加申込 現地受付(事前申し込み不要)、定員 60名(先着順)
- 4 問い合わせ 豊橋市文化財センター(☎0532-56-6060)



カザグルマ(2024年5月2日)